

活動に向けて打ち合わせをする松田理事長（中央）と上藤事務局長（左）
＝静岡市駿河区の静岡大

静大教授らNPO設立

医療、福祉現場の

人材育成支援

知識と技術、多彩な分野



静岡大文学部の教員と県内の医療従事者らがこのほど、医療や福祉分野の人材育成をサポートするNPO法人「ヒューマン・ケア支援機構」を設立した。対人援助に関係する法的、倫理的な考え方やコミュニケーション技術など、機構のメンバーそれぞれが専門とする知識を広めることで、ケア現場の質の向上につなげる。

活動内容は、病院や福祉施設職員の講習やボランティアの養成、紹介が柱。11人のメンバーは理事長で静岡大文学部の松田純教授（生命倫理）をはじめ、緩和ケアに取り組む医師、医療機関や高齢者施設で読み聞かせや似顔絵を描くボランティアをしているアナウンサーや看護師、理学療法士、音楽療法士、病院の司書など多彩だ。

メンバーのうち5人は静岡大大学院で臨床人間科学を専攻し、松田教授に学んだ経験がある。そのうちの一人で、病院で読み聞かせボランティアをしている上藤美紀代事務局長（フリーアナウンサー）は「法や倫理の知識を学んだことが、医療現場で人に向き合うときの自信になった」と力を込める。大学院修了後、ポイスセラピーを提唱している上藤事務局長は、講習を通して「ケアする側の声の掛け方一つで相手は変わることを伝えた」と意気込む。

松田教授は「高齢化や無縁社会」の進行で、人に対するケアはますます重要になっている」と話す。その上で、「例えばケアの現場には「患者の意思を尊重したいが、相反する問題が生じる」「利用者や家族との

関係がこじれる」などの問題がある。倫理やコミュニケーションなどの知識と技術があれば、解決に導けることも多い」と指摘し、「これまでメンバーが蓄積した知的資源を役立てたい」と強調した。

NPO法人「ヒューマン・ケア支援機構」は6月25日午後2～5時、静岡市葵区東草深町のアイセル21で設立記念シンポジウム「つながりと支援のネットワークへ」を開く。

「つながりと支援」でシンポジウム
来月25日、静岡

「ケアと絆」と題して基調講演する。続いて「NPOに期待するもの」をテーマに、機構メンバーの音楽療法士勝山真弓さんや県立大短期大学部の天野ゆかり助教などがパネル討論する。

参加費300円。問い合わせはメールで上藤美紀代事務局長〈nefuji@ek.tnc.ne.jp〉へ。